

日本映画衛星放送株式会社 第35回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成25年9月10日(火) 15時～16時
2. 開催場所 : 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー東館15F
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・川本 三郎・坂井 保之・鈴木 嘉一・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
放送事業者側出席者: 代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 酒井 彰
編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 澤 尚志
編成制作部(特集編成担当者) 矢次 晋也
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)
4. 議題(1) 審議事項
日本映画専門チャンネル、企画特集「特撮国宝-TOKUHO-」について。
(2) 報告事項
時代劇専門チャンネル、「大岡越前」放送開始等について。

5. 議題(1) 概要

日本映画専門チャンネルでは、「東宝特撮王国」と題し、東宝が製作・配給をした特撮映画をレギュラー放送しているが、2013年7～9月の3ヵ月は限定企画として、映画やテレビなどのジャンルを越えて、貴重な特撮作品を編成し、「特撮国宝-TOKUHO-」として放送した。この「特撮国宝-TOKUHO-」では、映画監督・樋口真嗣をナビゲーターに、特撮界の匠たちを招いてインタビューするオリジナル特番を制作し、匠たちの手がけた作品とともに放送することで、特撮の貴重な記憶と熱い情熱を伝えている。また、この特集を通じ、特撮ファン、および広く一般の視聴者に、特撮の奥深い魅力を知らしめるため、新たな放送外展開を実施した。

こうしたマニアックな企画・番組を特集放送し、イベントや動画配信(USTREAM)、或いはSNS(公式Facebook)など、様々な放送外展開について、委員の皆様にご審議頂いた。

6. 議題（1）審議内容

- ・特撮はマニアックなジャンルだが、日本映画の一ジャンルであり、取り上げたことには意味がある。樋口さんはナビゲーターとして適任。オピニオンリーダーとして、特撮界の専門用語や業界情報のインタープリターとしても機能している。放送外のメディアミックス展開は、ジャンルを考えれば当然。
- ・真面目に作られた特番だとは思いますが、映像制作の内輪話には興ざめた。今回の特集や取り組みはマニアック過ぎて、放送が持つべき公共性に欠けている。
- ・特番は、番組としては良く出来ていると思うが、取り上げられている作品や人物が分からず、退屈した。こうした取り組みは、やり方を再検討しながら続けていくべきだ。
- ・徹底的にマニアックで良かった。ただ、もっと見せ方に工夫が欲しい。特撮作品の例として見た「さらば海底空母イ-401」なども非常に面白かった。
- ・必ずしもマニアックとは思わないし、特撮をマニアックと切り捨てることはできない。放送外展開もマニアックだったが、それはそれで良かった。
- ・特撮作品を日本映画専門チャンネルで放送することは、視聴につながりやすく、価値がある。放送外展開として、今後有料放送独自の形を模索し、成功例を確立して欲しい。
- ・今回の特番の作り方には疑問を感じた。映像制作経験のない素人にも伝わるように、もっと丁寧に番組制作すべきだ。

<事業者回答>

- ・特集全体がマニアックになり過ぎたと反省している。ナビゲーターの樋口さんについて言えば、このジャンルではマニアを納得させるオーソリティーが必要だと考えた。特集を面白くして頂いたし、作品選択にも貢献して頂いた。しかし、特番の見せ方、伝え方は、委員の先生方がおっしゃるような、より工夫しなければいけないと反省した。
- ・特番は、番組の作り手の視点が見えず、マニアックでいいと簡単に考えてしまっている。そこは反省しなければいけない。もっと特撮を文化として捉えるなり、携わる人間に迫るなりして、テーマを普遍化し、一般の視聴者に伝わるようにすべきだった。

7. 議題（2）報告事項

時代劇専門チャンネルから、ご報告事項を二つお伝えする。

一つ目は、大型時代劇ドラマの放送開始決定について。加藤剛主演「大岡越前」全15部を、9月先行放送、10月より本放送を開始する。全部で402話を放送する予定。

二つ目は、時代劇専門チャンネルオリジナルドラマ「鬼平外伝」シリーズ第四弾「鬼平外伝 老盗流転」を、9月8日(日)BSスカパー!にて先行放送した。この冬に、時代劇専門チャンネルで本放送を予定している。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2013年11月12日開催。

(以上)